

平成25年度学校自己評価システムシート (県立三郷特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元気な学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 個別の指導計画に基づく授業の充実・改善 2 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター機能の発揮 3 進路指導の充実 4 安心・安全・信頼を柱とする学校の基盤強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 6 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・昨年度、授業改善は進んだ。今後は、個別の指導計画を保護者との共通理解のもと綿密に作成し、授業へ反映させていく必要がある。	・授業改善を継続し、個別の指導計画を授業に反映させる。	①保護者と連携し、個別の指導計画を作成する。 ②指導計画の作成、実施、評価、授業改善を進める。 ③個別の指導計画をもとに、自立活動に取り組む。	①個別の指導計画が保護者と共通理解のもと作成できたか。 ②計画的に学部研修会等を実施して授業改善ができたか。 ③自立活動の内容が授業に活かされたか。	保護者と連携し、個別の指導計画を立てるとともに、授業研究や事例研究を通して授業改善を進められた。 ①家庭訪問や個別面談を通して保護者に説明できた。 ②計画的に授業や事例研究、研修を行い推進した。 ③自立活動は研修や授業に取り組む中で教員の意欲や知識、技能を高められた。	A	①個別の指導計画は、保護者と共通理解を持ち作成できた。引き続き丁寧に取り組んでいく。 ②効果的な研修ができたが、更に研修を重ね授業改善を進める。研修等の学部間交流の機会を模索する。 ③自立活動については、引き続き、研修など授業内容の質の向上に努める。
2	・開かれた学校づくりとして、学校公開日に保護者のみならず、地域の方が来校しやすい方法を考える。また学区の変更に伴い特別支援学校のセンター的機能の対象及び内容を整理していく必要がある。	・開かれた学校づくりを推進。	①学校公開日に地域の方、ライオンズクラブやロータリークラブ、放課後支援サービスの方々に見学してもらう。 ②校内ボランティアの充実。 ③校内外において支援体制を充実させる。	①学校公開日を外部の方々にも周知できたか。 ②校内ボランティアに関するガイドラインが作成できたか。 ③関係機関と連携しながら校内外へニーズに応えた支援ができたか。	様々な機会を設けて、開かれた学校を推進できた。 ①HP、地域広報誌を活用し学校公開日を周知できた。 ②校内ボランティアに関するガイドラインを作成できた。 ③ニーズに応じて校内外の相談に随時対応できた。	A	①HPの充実と地域住民への広報の仕方を検討する。 ②本格的なボランティアの運用に向けて、人材の確保と教職員への理解を深める。 ③増加し続けている相談に対し、対応できる人材の育成を図る。
3	・進路指導全体計画に基づき、各学部において児童生徒の発達状況に応じた進路指導の更なる充実を図る必要がある。	・児童生徒の進路意識の育成。	①キャリア教育の観点で児童生徒の発達状況を把握し指導に生かす。 ②授業及び作業学習、実習等において進路意識の向上を図る。 ③個人面談や進路に関する説明会で、就労支援ネットワークの情報提供を丁寧に行う。	①児童生徒の発達状況を把握して指導できたか。 ②進路指導目標を意識した授業ができたか。 ③進路に関する面談や説明会を実施し、本人・保護者に進路情報を適切に提供、周知できたか	計画的な学習等で児童生徒の進路意識育成が図れた。 ①個別の指導計画に基づき、自立に向けた取り組みが計画的になされた。 ②コミュニケーション力の向上や社会的自立を意識し学習した。 ③保護者のニーズを把握し適切な情報提供を行った。	A	①自立活動にキャリア教育の観点を盛り込むことでより一層の充実を図る。 ②学校内外に各学部の進路指導目標の周知徹底を図り家庭の協力も求めていく。 ③情報の提供や周知にとどまらず、より深い理解を得るための努力を行う。
4	・危機管理マニュアルが作成されて3年目であるが、常に色々な観点から点検が必要である。今後は災害時の避難所としての対応マニュアルなども検討していく必要がある。	・安全、安心な教育環境づくり。	①避難所としてのマニュアルの概要を作成し始める。 ②災害伝言ダイヤル、web171の活用を周知し、より実践的に「引取り訓練」を実施する。 ③発作やアレルギー疾患等のガイドラインを作成する。	①避難所としてのマニュアルの概要が作成できたか。 ②各自が役割分担を確認し実践的に「引取り訓練」が実施できたか。 ③ガイドラインを作成し、研修会を実施して教職員に周知できたか。	災害訓練、ガイドラインの作成などを通して教育環境づくりが図れた。 ①児童生徒を対象とした救護室の体制を確認できた。 ②引取り訓練で災害伝言ダイヤル、Web171を活用した。 ③ガイドラインを作成し、周知することができた。	B	②3年目の引取り訓練ということもあり、形ができてきた。今後も地震、竜巻など自然災害を想定しながら、より実践的な方法を検討していく必要がある。 ③「アレルギー疾患管理指導願」を導入し、管理体制を強化する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成26年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の課題や意欲を引き出すような効果的な授業ができています。 ・個別面談や家庭訪問を通して保護者と連携できていることは大変良い。 ・研修の在り方は良い。推進を願う。 ・高等部の授業時間が短いのでは。社会へ出るためにはもう少し長く学習すべきではないか。検討を願う。 ・一定程度の宿題は必要と思う。 ・障害の重い児童生徒へのICT等の活用、充実を図ってほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に市内小中学校との連携が図られている。 ・就学前施設に通う保護者は早期から連携し情報交換する必要がある。 ・他校との交流教育はとても良い。 ・ボランティア活用は学校にとって有効。 ・校内での保護者向けの相談体制を今以上に充実させていただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現場実習は、生徒が具体的なイメージを持てるという点でとても有効である。引き続き推進してほしい。 ・児童生徒の発達に応じた進路指導がなされている。 ・保護者向けには、現場実習等の具体的な内容の情報提供があると、自分の子どもの進路についてイメージしやすく大変参考になる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもにとっての避難所の在り方について、学校としてどのようにしていくのか、総合的な見地から更に検討していただきたい。 ・災害時に通信途絶に陥った時の対応等について今後検討してほしい。 ・休日や長期休業中の災害への対応についても今後検討をお願いしたい。 	

